

# 令和3年度第1回北名古屋市行政改革推進委員会 会議録

## ○ 会議概要

### 1 議題

令和3年度事務事業の見直しについて

<事務局>

**【資料1 北名古屋市行政改革推進委員会委員名簿の説明】**

**【資料2 令和3年度事務事業の見直しについての説明】**

**【参考資料 主な検討項目一覧の説明】**

<会長>

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、十分な審議の時間を設けることができなかった。細かい論点についての議論ができなかったこともあり、見直しの方向性について議論していただいた。そういったことから諮問いただいた内容について今年度も引き続き審議することとした。

今回、一つ確認をしたいが、答申については、自治体戦略推進本部で議論した内容について認めるといったものではなく、自治体戦略推進本部で議論した内容を行政改革推進委員会でも議論し、行政改革推進委員会として出た結論を答申するといったことで良いか。

<事務局>

お見込みの通り。行政改革推進委員会として出た結論で答申をいただきたい。

<会長>

外部の民間の立場の意見として重みをつけて自治体戦略推進本部へ伝えてもらうことが良いと考えているがそういった考えでよいか。

<事務局>

お見込みの通り。当然、自治体戦略推進本部でも議論をしていくが、行政改革推進委員会より出た意見を含めることは非常に重要であると考えているため、自治体戦略推進本部でも意見を共有し、議論を深めていきたいと考えている。

<会長>

北名古屋市は2町が合併した市であるため、それぞれの町がフルセットで持っていた施設については、合併後は統合していく必要があった。しかし、合併後15年経つ今でも統合できていないものが残っている。統合されていない、かつ老朽化している施設については統合を進めていかなければならない。それは今後、下水道など大きな費用がかかる事業がたくさんあるためである。跡地についても検討をしていくということであったが、売却するのか、引き続き市の施設として活用していくのか等、行政改革推進委員会

としては、そういった意見を自由に言っていきたい。

#### < A委員 >

本日示された方針に関して反対する点はない。見直しを検討するときは、例外なく一律で公平にしていくことが基本であると考えている。フルセットで持っている必要がないものは削減していくということは理解するが、あまりにドラスティックにやってしまうのでは北名古屋らしさがなくなってしまう。北名古屋市の特徴や独自性が無くならないよう気を付けてほしい。

#### < B委員 >

北名古屋市は財政的に厳しい状況であり、公共施設を廃止するなどの情報を新聞などでよく目にするようになった。北名古屋市は総合計画を市民を交えて策定している。総合計画の実現のためには削減も必要になるんだということを市民に説明していけば削減や廃止についてもある程度理解していただけるのではないかと考えている。

#### < 会長 >

総合計画は夢を語る計画であり、行政改革といったものは夢の実現のために削減や廃止等を検討していくものである。委員が指摘された通り、市民に対してそのことをわかりやすく丁寧に話していくことが大事である。

#### < C委員 >

保育園の民営化について、直営から委託へ変更する際には保育の質の確保といった観点も大事にしてほしい。

施設の統廃合には市民に対して丁寧な説明が必要である。市有地の売却についても当時協力した地主さんは、学校の建設のために土地の収用に協力したといったような経緯があるかもしれないため、よく調査することが必要である。

私学助成について、去年の行政改革推進委員会では話は出ていなかったと記憶しているが、予算では廃止されている。北名古屋市は住民税非課税や生活保護世帯に4万円ほど出されていたが、他市では8万円ほどの助成があったように記憶している。近隣市町でカットされたのは1自治体くらいしかないので、そのことが少し引っかけた。

鉄道立体交差についても議論を進めていかなければならないと考えている。北名古屋市は合併して15年経過しているが、議論は進んでいるのか。

西春駅付近のまちづくりについて、三菱UFJ銀行までの通りのみ整備されており、裏の通りはシャッター通りとなってしまう賑わいが失われてしまっている。

北名古屋市の上下水道の耐震性について、修繕等に莫大な費用と時間がかかる。市民の生命財産を守るために必要なものである。

庁舎の一本化についても検討しなければいけないのではないかと。

これらの大きな問題に対して、全体的に議論する場が必要だと感じる。

#### < 会長 >

委員より指摘のあったことについては、自治体戦略推進本部にて議論されなければい

けない重要なことである。賑わいの創出や上下水道の施設更新については、どのような計画で実施していくのか、議論していかなければならない。また、私学助成の考え方についても示す必要がある。

#### <D委員>

最近の世の中の流れから話をすると、新型コロナウイルス感染症の影響により、緊急事態宣言が発令されて当初は国民は気を付けて行動されていたが、どういった基準で行動すればいいのか曖昧な状況であったため、だんだんといい加減な状況になってきている。オリンピックの酒類の提供についてもどういう方向性で決定したのかという話になる。丁寧な議論の中では何を基準に決めたのか、はっきりした数値根拠が必要になると考える。そういった事例からも、今回示された方向性・視点についてもきちんとした基準を数値として出していく必要があるのではないかと。先週の新聞の報道で県内の合計特殊出生率の10年間の増加ランキングで北名古屋市は6位であった。他自治体との比較検討も今回示された視点の中に盛り込まれているが、一般市民からすると他と比較して議論することは分かりやすい。

図書館の廃止の署名がされていると聞いている。個別の対応については、きちんとした経緯や理由を説明し、広く市民全体に向けて伝えるときは、数値目標を出して分かりやすく説明するのがよい。数値目標の精度はもちろん必要であるが、数値目標について行政改革推進委員会にも示してもらえれば我々民間の立場からも意見を言うことができる。

#### <会長>

委員のご指摘の通り説得の材料が必要である。人口と産業構成が似ている市町村と比較することが重要である。ただし、一律に類似団体との比較のみで廃止とする結論を出すのではなく、例えば、子育て世代を大事にするといった北名古屋市の特徴を持たせる検討も併せてしていく必要がある。

#### <事務局>

合計特殊出生率の数値からも北名古屋市は多くの市民の方から生活の拠点として選んでいただいていると感じている。類似団体との比較も、数値だけでなく、なぜ北名古屋市の水準が他自治体より高いのかといった内容面もよく調査した上で削減の可能性について検討していきたい。R4 予算編成に向けた項目については現在各部局に調査を依頼しており、8月末までにそれぞれの項目の結論を出そうと考えている。行政改革推進委員会においても調査結果をお示ししてご意見をいただきたい。

また、削減や廃止ばかりが目立ってしまうが、西図書館の跡地検討のように今後市民の方に新たなものを提供する内容もあるため、前向きな検討をしていきたい。

#### <E委員>

今年度の行政改革推進委員会の役割のようなものが分かりやすく示された資料があるとありがたい。

数値目標や行財政の見通しを共有するとより議論できるのではないかと。最近、京都市から財政再建団体になる恐れがあるといった情報が出されている。そういった情報があると、夕張市のことが思い起こされるが、夕張市では保育園が一つしかなく、若い職員もいなくなってしまうといった状況である。夕張市と北名古屋市とでは環境が全く違うため夕張市のようになることはないかもしれないが、財政的に厳しい市から、そうなった理由や反省点について参考になるものがあるのではないかと。合理化や新しい政策は住民の理解が得られやすいが、痛みが伴う改革となると理解が難しくなる。どこまで悲観的なイメージを伝えるのかは難しいが、非常に厳しい状況であることを伝えていかないといけないのではないかと。未来のことを考えてもらうためにも、ある程度共有できる情報は市民と共有していかないといけない。悲観させるだけではいけないが出せる情報は出していったほうが良いのではないかと。

#### <会長>

いままで日本は人口がずっと増えてきた。人口が減少する事態となるのが初めての経験で、何とかするのではないかとという考えの人が多く。1992年ごろから生産年齢人口が減っている現実があるにも関わらず、労働力として外国人の受け入れについて否定的な人が多い。根本的に何とかするだろうといった考えの人が多くからである。そのため、公共施設や上下水道の維持にはこれだけ必要といった具体的な数値を出していかなければ、実感として判断できないのではないかと。京都市については、財政破綻すると発信したことで住民に危機感を出しているが、若い世代が逃げて行ってしまう事態になる恐れがあるため、どの程度の伝え方をするかは見極める必要がある。

#### <F委員>

持続可能な地域にするためには限られた財源の中でやりくりすることが非常に重要であると考えている。また、持続するためには、人口を維持することが非常に重要であり、それを実現するためにも選択と集中が必要であると考えている。多くの方に北名古屋市で生活をしたい、子育てをしたいと思っていただくために何が必要で何を維持していくか、検討していくことが重要と感じた。市内の施設の統廃合について、地元から反対の意見が出るのはその通りであるのだが、あえて言わせてもらうと北名古屋市で現状実施している行政サービスは今後もフルスペックでやっていく必要があるのか、他市との連携の中でカバーできないか、あるいは民間等に投げたまま市としては廃止するといった視点も行政改革としてはあってもいいのではないだろうか。

#### <会長>

民間にサービスを委託するといったやり方もある。行政がやらなければいけないサービスであるのかどうかの検討もしていかないといけない。

#### <事務局>

選択と集中、民間代替性について、今回視点として出している。以前、行政は住民が

ら言われたことは全てやるといった風潮があった。しかしながら、現在は、行政がやるべき事業かどうか検討していく時期に来ている。

今年度の行政改革推進委員会の役割について、昨年度は全ての検討項目について皆様にお示しし、議論していただいたが結果として多大な責任を背負わせることとなった。今年度としては見直しの方向性や視点について答申をいただく予定である。

<会長>

大きな視点を決めるためには、具体的な検討項目についても見る必要がある。北名古屋市の特徴や独自性を残す必要性など、今後の見直しの方向性について検討する材料が今回の会議で結構出たのではないか。

<C委員>

令和2年度と3年度の予算を見比べたときに、建設費が大幅にカットされている。東海大豪雨の記憶が風化しかけているので、生命・財産を守ることに最低限必要なところまで建設費をカットしてしまわないように気を付ける必要がある。

<会長>

災害については、たまたま起きていないだけで、維持補修費用を削減することが原因で災害が広がらないようにする必要はある。阪神淡路大震災の際に、避難所が壊れてしまい非常に混乱したといったことがあった。そういった光景を見て学んだはずが、風化してきている状態である。災害対策についても検討することは重要である。

<A委員>

災害が起きた際に、耐震化しているかどうかは非常に重要である。さらに、耐震化していたものも災害を受けて危険な状態になっている可能性もあり、災害後安全性を確認することも重要となる。

<会長>

他に質問はよろしいか。見直しの方向性・視点について、秋を目途に答申することとするがよろしいか。

(賛同)

<会長>

賛同が得られたため、今年度は秋の答申を目指し議論をしていく。  
これにて委員会を閉会とする。

【閉会】

配布資料	資料1 北名古屋市行政改革推進委員会委員名簿 資料2 令和3年度事務事業の見直しについての説明 参考資料 主な検討項目一覧の説明
------	--